



<今年度、「コロナ禍」での入学試験が始まりました>



10月後半から今年度の入試が本格的に始まりました。これまでもこの進路だよりで紹介してきたように、今年は新しい大学入試制度の初年度にあたるため様々な変更が行われており、出願に当たっては注意を要することが多々あり、受験する生徒はもちろん、指導する教員にとっても例年以上に気を引き締めて臨まないといけない状況です。そのような状況に加えて、今年は新型コロナウイルス感染症拡大のため、その感染防止対策に関わる変更も、状況に応じて次々と発表されており、**情報を正しく捉えながら、臨機応変に対応していく**ことが求められています。今回は、そんな「コロナ禍」の中での入試について、現時点で考えられることをまとめておきたいと思います。コロナ禍が収束しなければ

次年度以降も同様の状況が続くことが予想されますので、これから本格的に受験に向かう3年生だけでなく、ぜひ1、2年生にも知っておいて欲しいと思います。

12月の進路関係予定

- 1(火) 第4回定期試験
[11/26(木)~12/1(火)]
- 4(金) プレ演習③[~5(土)]
欠試験提出締切
- 5(土) 土曜課外① GTEC②
- 三者懇談期間③ (PM)
- 8(火) [~10(木)]
- 大学出張講義①
- 11(金) プレ演習③[~12(土)]
- 12(土) 土曜課外②③、学習会②、F講座
- 18(金) プレ演習③[~19(土)]
- 21(月) 学年会議
- 22(火) 推薦等合格者指導③
- 23(水) 成績会議・職員会議
- 25(金) 終業式 大掃除
- 28(月) 冬期休業開始
- 29(火) 学校完全閉鎖期間 [~1/3(日)]

※○数字は学年を示します

【入試日程の変更】

総合型選抜(旧AO入試)は出願が2週間遅れで開始となり、大学入学共通テストは通常の第一日程に加えて、2週間後に第二日程(現役生のみ)や2月中旬の特例追試が設定された。しかし、第二日程を選択した受験生は全国で789名のみ(第一日程は531,118人)となったため、**2回の共通テストの難易度や平均点の相違などによる実質的な影響はなさそう**だ。しかし各大学の入試スケジュール(合格発表など)は**すでに後ろ倒しに変更されている**ため、結果的には全受験生にとって大きな影響があり、併願校の合格発表日や入学手続日を考慮した受験スケジュールを慎重に検討する必要があると言える。

【出題内容の変更】

個別試験については、「出題範囲に関する配慮」や「選択問題」を設定するケースは少なく、「発展的内容の取り扱い」については「補足事項」を記載するというケースが多いため、コロナ禍による休業期間はあったが、**試験の出題内容自体に大きな変更はなさそう**である。つまり、**休業期間もしっかり学習していたかどうか、この差が響いてくる。**

【総合型選抜や学校推薦型選抜について】

総合型選抜や学校推薦型では、通常、対面での面接やプレゼン、グループディスカッションなどが実施されるが、新型コロナ感染防止対策のため、**事前課題の提出**を求めたり、**オンラインによる面接**に切り替えたりする大学が増えている。オンライン面接はZoomを利用するケースが大半で、オンライン環境はもちろん、カメラとマイク(イヤホン・ヘッドセット)付きのパソコンかタブレットなどが必要となる。スマホは画面が小さいため不可とされる場合もあり、要注意である。原則、オンライン面接は自宅で行うが、その注意点を以下にまとめておく。

オンライン面接における注意点

- ・実際にZoomを体験し、通信環境などを確認しておくこと。
- ・試験中はカメラで室内が写ってしまう。背景にも気を付ける必要あり。
- ・試験に当たっては第三者の入室、試験画面以外の閲覧、試験の録音や録画、他の電子機器の使用など、大学によってさまざまな禁止事項が設定されている。

いまだ、コロナ禍が収束する目途は立っていません。今後の感染状況によってはさらなる変更もあり得ます。**大学のHPなどを随時チェック**し、早めに準備をしておきましょう。

<進路を考えるヒント：「金曜ロードショー35周年」から考えるセレンディピティ>



『劇場版 鬼滅の刃 無限列車編』が10月16日より封切となり、記録的な大ヒットとなっています。この映画は原作が面白いことはもちろんですが、コロナ禍により所謂「ハリウッドの大作映画」の公開が遅れているため、シネコンの複数のスクリーンで上映回数が稼げることもヒットの一因となっています。いずれにせよ、コロナ禍で客足が減ってしまい、経営状況の危機にある劇場にとっては喜ばしいことだと思われます。

一方で、今では映画を見るために劇場に足を運ぶ必要はありません。数は少なくなりましたが、街には「レンタルビデオ屋」がありますし、またネットの普及に伴いAmazonPrimeやNetflixなどの映画配信サービスを利用すれば、家に居ながらにして膨大な数のタイトルを視聴することが可能となっています。映画好きな人（私もその中の一人ですが）からすれば、まさに天国のような時代が到来したと言えます。

しかし、昭和生まれの私のような人間にとって、映画との最初の出会いはやはりテレビであり、その中でも「金曜ロードショー」（現在は「金曜ロードSHOW」）は特別な存在ですね。週末に向かう気分も手伝ってか、夜更かししていても親に怒られずに映画を観ていられたし、昔は放送コードが緩かったからか、今だったら子供には見せられないような映画でも平気で放送していましたからね…。そんな「金曜ロードショー」ですが、先ごろ偶然目にしたネットニュースによれば、今年の10月で**35周年**を迎えたそうです。現在番組のプロデューサーを務める北条伸樹氏の語るところによれば、「現在、各局から地上波の映画番組は次々に姿を消してしまい、一方ではメディアの多様化により、観たいものを自分の都合に合わせて観ることができる状況になった」「しかし、そうした状況は視聴者に利便性をもたらすと同時に「**映画をテレビで見る**」という**ひとつの文化の灯**を脅かすことにもなった」、そう北条氏は述べています。続けて北条氏は「**テレビで映画を見る価値というものがある**」と語り、そのために氏は様々な趣向を凝らして「金曜ロードショー」を続けているのだそうです。その価値とは、北条氏曰く「**わざわざ観ようとは思わなかった映画との偶然の出会い**」だそうです。私は記事のこの箇所を読み、まさにその通りだと膝を打ちました。私も数々の映画を観てきましたので中にはもちろん「あれ？」という作品もありますが、時にはほとんど面白くない作品に当たることもあります。しかも、そのような作品は、自分からは絶対に観ようとは思わなかったのに、たまたまついていたテレビで観たという場合が多いのです。（私の経験では、金曜ロードショーで言えば、『ポセイドン・アドベンチャー』（72年）ですね。この映画でジーン・ハックマンを知り、のちに『スーパーマン』（78年）を観た際、彼が悪役になっていたことを知り、幼心にとっても残念に思ったことを今でも覚えています。ちなみに私は1976年生まれですので、この2作に出会えたのは「金曜ロードショー」のおかげです。）

さて、私がなぜこのようなことを進路だよりに書いているのかと言いますと、生徒アンケートに「学校で実施された講演会は、私には全く関係ない内容だからつまらない」とか「私は文系なので、理系の内容の講演会は意味がない」とかいった感想をいまだに目にするからなのです。そうした感想を書く人は逆に言えば、「自分に関係のあることしかせず、自分の興味のあることだけしかしない人」ということですね。それって**最初から自分で「枠」を決めてしまっている**せんか？そしてその「枠」は狭くなることはあっても、広がることはなさそうですね。そもそも、自分に関係のあることって自分で決められるのでしょうか？文系（または理系）という枠組みも、受験までの短いスパンでの話で、その後の長い人生において「文系（または理系）だから」っていつまで言い続けるつもりなのでしょうか？学校で行われる様々な講演は、**自分からは機会を作って聞きに行くことはない講師によるものが大半**だと思います。でも、だからこそ一層聞いてみる価値がありますね。テレビで映画を観る価値と同様、**学校で聞く講演会にも価値がある**のです。でもそれを**価値あるものにできるかどうかは、聞こうとする姿勢があなたにあるかどうかです**…とここまで書いて、タイトルにあるセレンディピティの話につなげようと思っていたのですが、紙幅が尽きてしまいました。セレンディピティの語源は「スリランカ」なんですけど、それが今回の話とどんな関係があるの？と気になる人は各自で調べてみてください！